

令和3年度 第7回県政参画電子アンケート
「持続可能な住生活環境基本計画(案)」に関するアンケート結果概要

1 調査概要

- テーマ 「持続可能な住生活環境基本計画(案)」に関するアンケート
- 実施期間 令和3年12月6日～12月20日
- 対象 県政参画電子アンケート会員 721名
- 回答数 468名(回答率 64.9%)

2 目的・概要

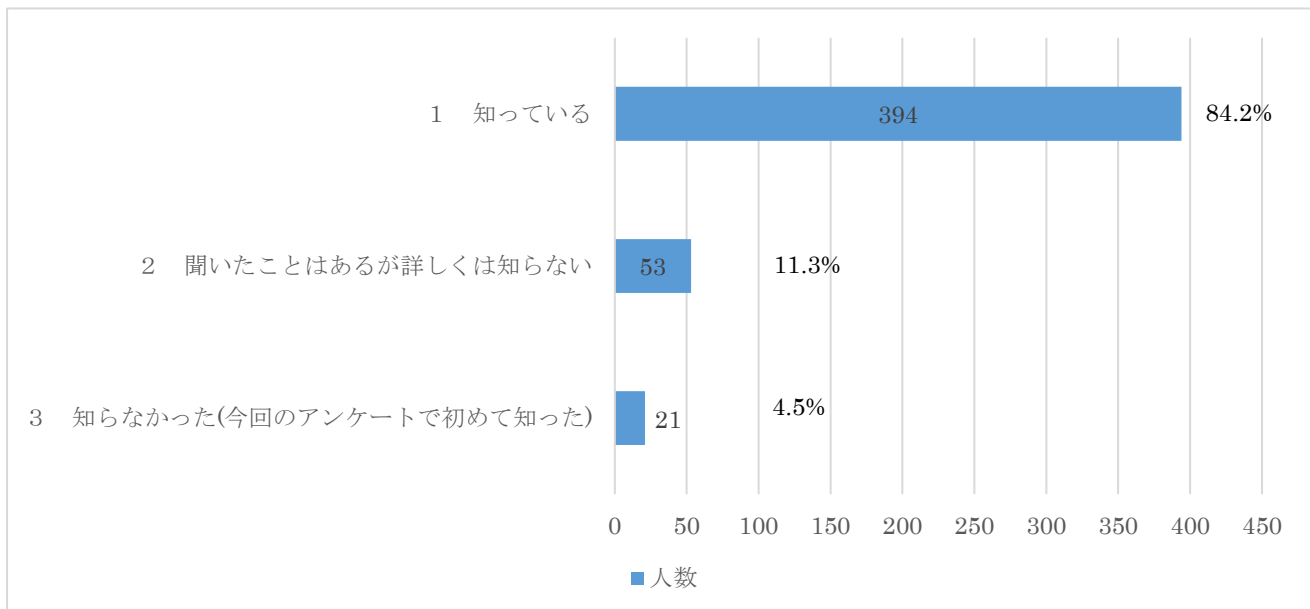
鳥取県では、住生活基本法に基づき、豊かな住生活を実現することを目的に平成18年に住生活基本計画を策定し、社会情勢の変化等を踏まえ5年ごとに見直しを行っています。平成28年の改定から5年が経過し、脱炭素社会の実現やSDGsの推進など持続可能な住生活環境の形成に向けた施策及び目標を定めることを目的として、従来の住生活基本計画を改め、新たに「持続可能な住生活環境基本計画」の策定を進めています。

計画では既存住宅の省エネ改修を大きな柱として、県独自基準を策定し、基準に適合する断熱改修を普及していくこととしております。

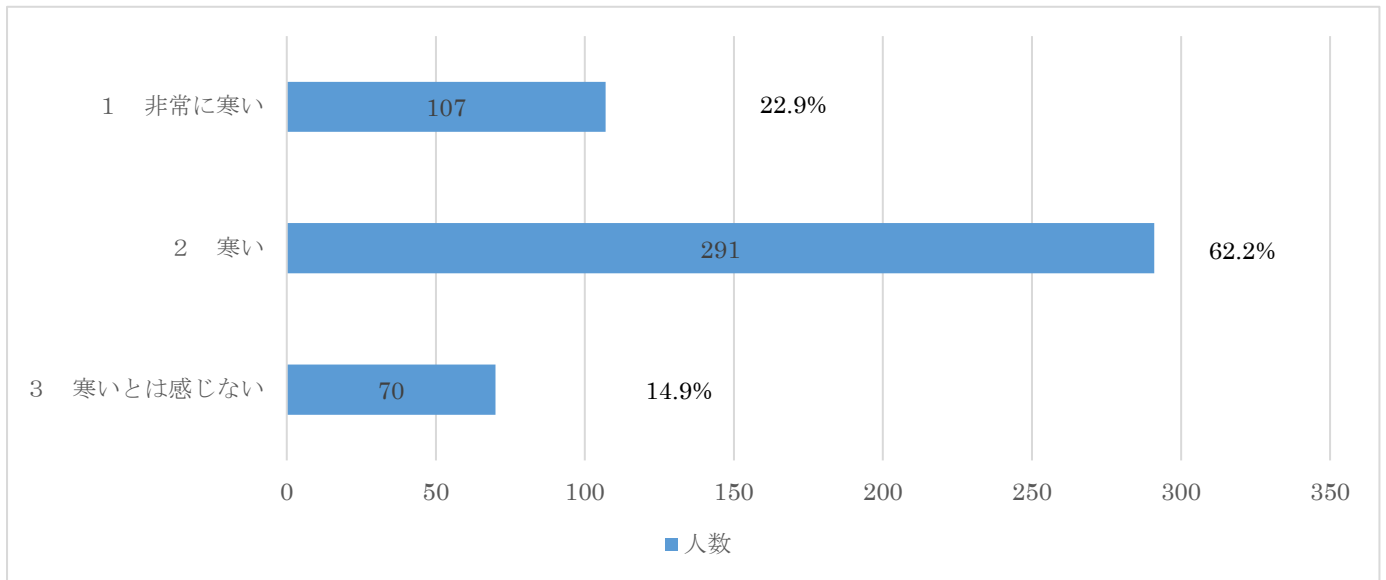
つきましては基準策定及び今後の普及施策の参考としたいのでアンケートを実施しました。

【問1】断熱性能が低い住宅では、脱衣所や浴室などが寒く、部屋との温度差からヒートショックを引き起こす恐れが高まることを知っていますか。

- ヒートショックとは急激な温度変化により身体がダメージを受けることを言います。
- 暖かいリビングから脱衣所で服を脱ぎ、寒いお風呂場に入り、さらに熱い湯船に浸かった場合、急激な温度変化により血圧が大きく変動します。
- 血圧の変動は心臓に負担がかかるため、心筋梗塞や脳卒中の危険性が高まります。



【問2】今お住まいの住宅は、寝室や浴室、脱衣所、トイレなどで寒さを感じますか。



とっとり健康省エネ住宅性能基準(NE-ST(ネスト))

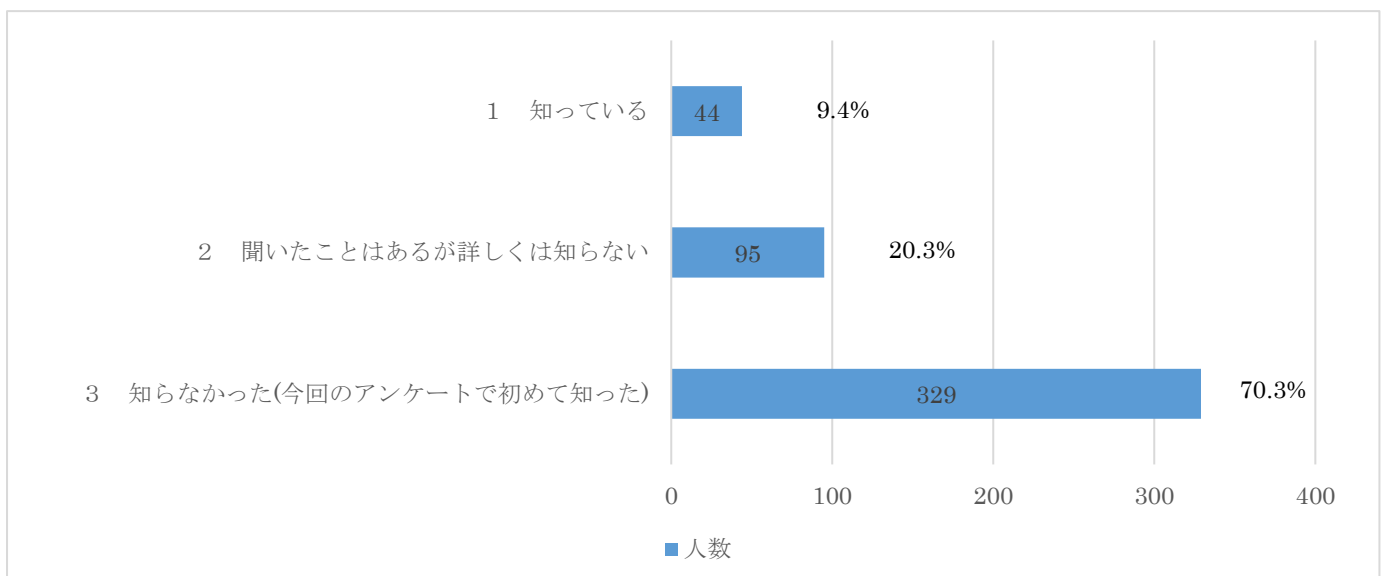
住宅を新築する際、国の基準を上回る鳥取県独自の住宅性能基準です。高断熱、高气密の家を実現することで光熱費を抑えることができるため、長期的(5~35年程度)に見れば工事費を含めても経済的であるほか、室温差が少ないことから冬季のヒートショックが起きにくく健康的に暮らせる基準となっています。

この基準に適合する戸建住宅に対しては、鳥取県が補助金を整備しており、最大150万円の補助金があります。

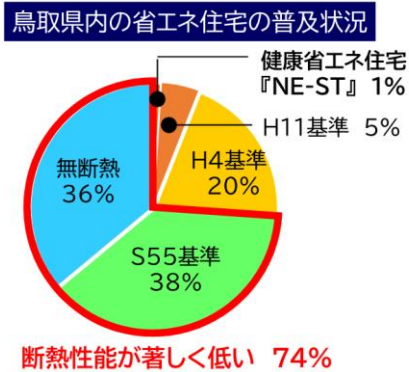
区分	無断熱	国の省エネ基準			ZEH (ゼッチ)	とっとり健康省エネ住宅性能基準『NE-ST』		
		等級2	等級3	等級4		T-G1	T-G2	T-G3
基準の説明		旧基準 (S55年)	新基準 (H4年)	次世代基準 (H11年)	2020年標準 政府推進	冷暖房費を抑える ために必要な 最低限レベル	経済的で快適に 生活できる 推奨レベル	優れた快適性を 有する 最高レベル
断熱性能 U _値	—	—	1.54	0.87	0.60	0.48	0.34	0.23
気密性能 C _値	—	—	—	—	—	1.0	1.0	1.0
冷暖房費削減率	—	—	—	0%	約10%削減 日本は努力義務 欧米は義務化	約30%削減	約50%削減	約70%削減
国と鳥取県の 現状と目標	寒	●日本 (0.87)			●フランス(0.36) ●ドイツ(0.40) ●英国(0.42) ●米国(0.43)	暖		

※断熱性能(UA値):建物内の熱が外部に逃げる割合を示す指標。値が小さいほど熱が逃げにくく、省エネ性能が高い。
 ※気密性能(C値):建物の床面積当りの隙間面積を示す指標。値が小さいほど気密性が高い。
 ※ZEHは、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略。省エネと太陽光発電などの創エネにより、年間の一次消費エネルギー量(空調・給湯・照明・換気)の収支をプラスマイナス「ゼロ」にする住宅をいう。

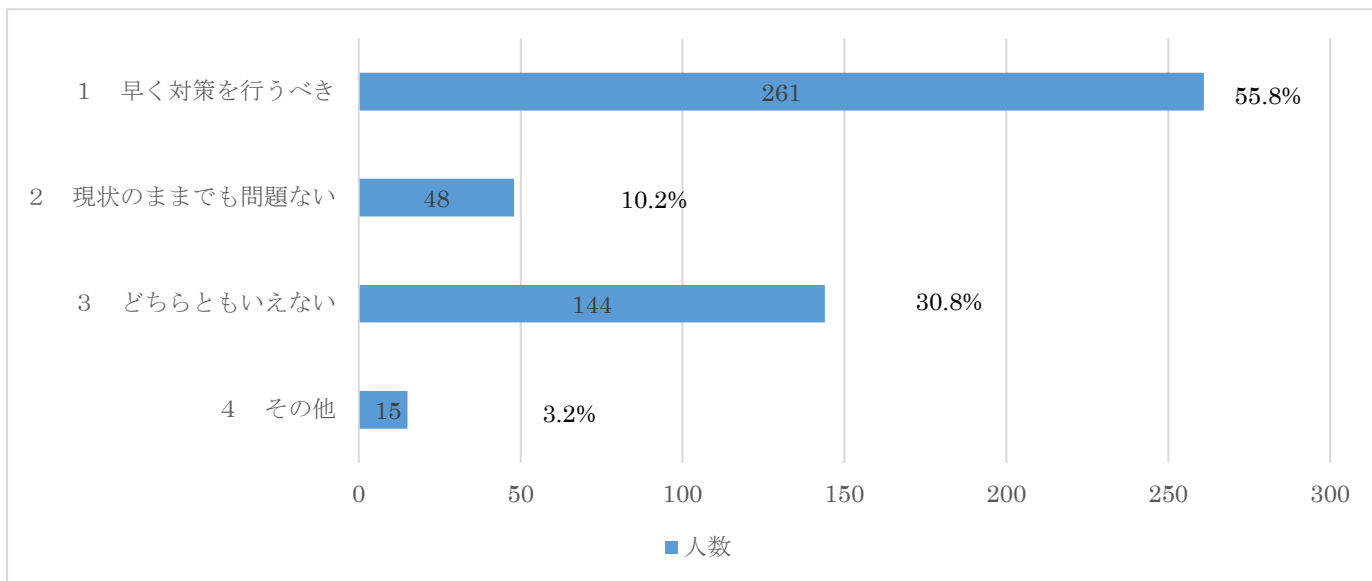
【問3】鳥取県では欧米並みの高い断熱性能基準「健康省エネ住宅性能基準」を県独自に定めていることを知っていますか。



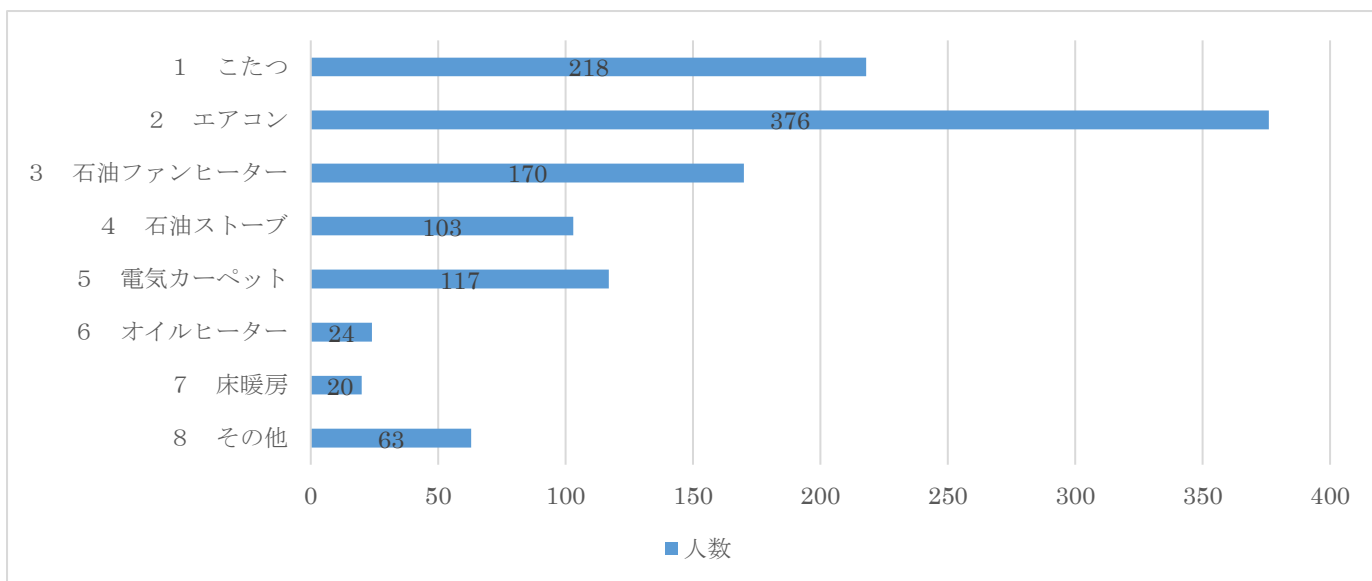
鳥取県内の省エネ住宅の普及状況



【問4】県内の住宅のうち、74%は断熱性能が著しく低いという結果となっています。この現状をどう思いますか。



【問5】家の中で冬の暖房器具は何を使用していますか。



※複数回答、回答者468名

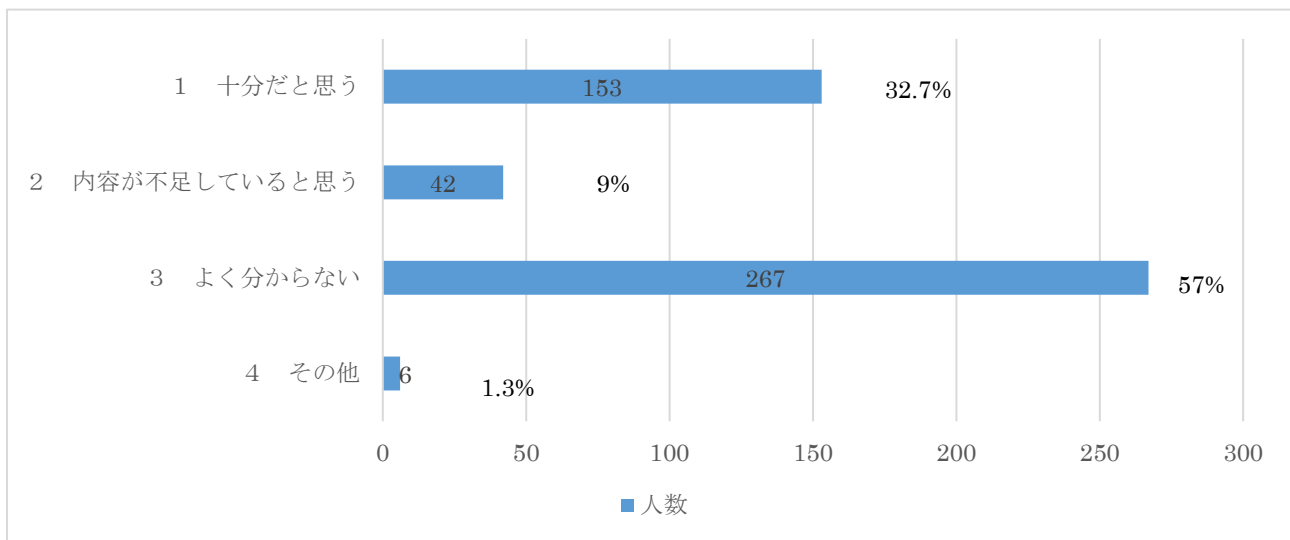
Re-NEST

既存住宅でもヒートショックを予防し健康で快適に暮らしていただくために、鳥取県では家まるごとを経済的に暖めることができる断熱改修の基準を県独自に策定する予定です。

区分	無断熱	国の省エネ基準			ZEH (ゼッチ)	『Re-NEST』 (改修基準)	とっとり健康省エネ住宅性能基準 『NE-ST』(新築基準)		
		等級2	等級3	等級4			T-G1	T-G2	T-G3
基準の説明		旧基準 (S55年)	新基準 (H4年)	次世代基準 (H11年)	2020年標準 政府推進	健康的に暮らすための 改修レベル	冷暖房費を抑えるために必要な 最低限レベル	経済的で快適に生活できる 推奨レベル	優れた快適性を有する 最高レベル
断熱性能 U _a 値	—	—	1.54	0.87	0.60	0.48	0.48	0.34	0.23
気密性能 C値	—	—	—	—	—	—(1.0推奨)	1.0	1.0	1.0
冷暖房費削減率	—	—	—	0%	約10%削減	約30%削減	約30%削減	約50%削減	約70%削減
国と鳥取県の現状と目標	寒						今の欧米	暖	

※断熱性能(U_a値):建物内の熱が外部に逃げる割合を示す指標。値が小さいほど熱が逃げにくく、省エネ性能が高い。
 ※気密性能(C値):建物の床面積当りの隙間面積を示す指標。値が小さいほど気密性が高い。
 ※ZEHは、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略。省エネと太陽光発電などの創エネにより、年間の一次消費エネルギー量(空調・給湯・照明・換気)の収支をプラスマイナス「ゼロ」にする住宅をいう。

【問6】既存住宅を断熱改修する場合の県独自基準「Re-NEST」について内容は十分だと思いますか。



【問7】今お住まいの家をどのくらいの費用であれば断熱改修したいと思いますか。参考に健康省エネ住宅を建てた方の暮らしの変化についてアンケートを行った結果を紹介するので、高断熱の住宅のメリットを踏まえてお答えください。

<アンケート結果>

- 家全体が暖かいので冬の朝でも支度がスムーズに進み、ストレスから解放された。
- エアコンだけで、1年中春のような室温のため、暖房器具や冬用の布団、冬用の部屋着などが不要になり、物が減った。
- 寒さを感じないので、家事なども面倒に感じなくなった。

